

## 別表第1

## 経済学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

**(人材養成に関する目的)**

経済学部は、学修を通して自分の考えをつくりあげ、社会の持続的な発展と自ら進んで人びとの福利に寄与できる人材、地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材、国内外で活躍する人材の養成を目的とする。

**(教育研究上の目的)**

経済学部は、将来の目標を意識して学生が選択する「地域・国際・金融・公共」の4クラスターにおいて、経済学の基礎から応用・実践までを系統的に学び、グローバルな視点と地域的な視点を身につけることを目的として教育・研究をおこなう。

## 経済学部の3つのポリシー

**(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

経済学部では、下記の事項を達成した者に対し、学士の学位を授与する。

1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の経済社会の諸事象を説明できる。
2. 地域経済や国際経済、金融・公共部門が抱える諸問題を理解し、それに取り組む能力を修得している。
3. 多様な文化と価値を知った上で、現実の問題解決能力と、公共の福祉に寄与するためのモラルや人間力を備えている。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

経済学部のカリキュラム・ポリシーは下記のとおりである。

1. 学部ユニット、理論ユニットの科目を履修させた後、地域・国際・金融・公共の各クラスター配置の科目の履修により、卒業後の職業を見据えた応用力・実践力を段階的に養成する。
2. ゼミナール等の少人数教育によって、議論を通じて他者との相互理解を深めるとともに、問題発見能力やコミュニケーション能力等の社会人に必要とされる知識やスキルを身につけさせる。

**(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)**

経済学部は、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 入学前に経済学を学ぶ上で必要な基礎学力を培うと同時に、地域・日本・世界の経済に関して幅広い関心を持ち、大学での勉学に積極的に取り組む人。
2. 卒業後には経済の知識や資格を生かして地域社会に貢献したい、あるいはグローバルに活躍したいと考え、その実現に必要な能力を身につけようという意欲を持つ人には、勤労者や社会人も含めた広い世代に門戸を開いている。

4 学期末特別補講を受講する者は、別に定める特別補講料を納付しなければならない。

**(特別補講)**

第48条 再試験の実施科目について特別補講を行うことがある。

2 特別補講を受講する者は、別に定める特別補講料を納付しなければならない。

**附 則**

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 平成30年度に入学した学生に対する改正後の規程第11条別表第2（年次別授業科目配当表）、第31条及び第46条の規定の適用については、なお従前の例による。

**附 則**

1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2 平成31年度以前に入学した学生に対する改正後の規程第13条、第13条の2、第41条、第43条、第47条及び第48条の規定の適用については、なお従前の例による。

**附 則**

1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2 平成31年度以前に入学した学生に対する改正後の規程第14条第1項、第37条及び第38条の規定の適用については、なお従前の例による。

**附 則**

1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

2 令和3年度以前に入学した学生に対する改正後の規程第6条、第9条、第11条別表第2（年次別授業科目配当表）、第12条、第14条、第22条、第23条、第31条及び第33条第3項別表第3（単位を認定することができる学修の範囲）の規定の適用については、なお従前の例による。

別表第1

商学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

**(人材養成に関する目的)**

**《商学部》**

商学部は、建学の理想である「産学一如」と建学の理念である「市民的自覚と中道精神の振興」「実践的な学風の確立」のもと、幅広い教養と商学・経営学・会計学・情報学及び関連する学際的領域の学びを通じて、広く産業界の期待に応えられる「実践力」、「熱意」、「豊かな人間性」を持ち、激しく変化する時代に主体的に対応できる人材を養成する。

**《経営・流通学科》**

経営・流通学科は、幅広い教養と企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報の専門的・実践的知識の学びをもとに、「地域産業の発展を通じて地域活性化に貢献できる人材」、「激しく変化する現代社会をたくましく生き抜ける人材」を養成する。

**(教育研究上の目的)**

**《商学部》**

商学部の教育研究上の目的は、幅広い教養を身につけるとともに、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した「多様なコースでの専門的知識の学習」と「九州・アジアの地域社会・行政・企業を対象とした実践的な学び」を通じて、ビジネスに関わる課題を自ら発見できる能力、幅広い視野から解決策を提案できる能力、周りを巻き込み実行できる能力を学生に習得させることである。

**《経営・流通学科》**

経営・流通学科の教育研究上の目的は、九州・アジア地域を実践的な学びの対象として重視しながら、①幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識、②企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報の専門的知識、③問題設定能力・問題解決能力、④行動力・やり遂げる力、⑤コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を学生に習得させることである。

## 商学部の3つのポリシー

**(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

商学部では、「産学一如」の理想と人材育成の目標に基づき、以下の知識や能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識を身につけている。
2. 企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報に関する専門的な知識を身につけている。
3. 自ら問題を設定し、それを解決することができる。
4. 主体的に行動し、最後までやり遂げることができる。
5. 他者とコミュニケーションを図りながら、自らの考えや意見を伝えることができる。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

商学部では、「産学一如」の理想を実現する人材を育成するために、以下の教育を実施する。

1. 職業人として必要な基礎知識を身につけるために、各コースが提供する基礎科目を学科の全員もしくは学系の全員が履修する。
2. 専門的な知識を身につけるために、各コースにおいて設定されている体系的な専門科目をカリキュラムマップに沿って履修する。
3. 少人数教育を実践するため、すべての学年におけるゼミナールを全員履修とし、問題設定・解決能力や行動力、コミュニケーション能力を養うための教育を行う。
4. 実践力を育成するために、九州ビジネス科目と研修科目を設定する。これらの科目の中から興味・関心に基づいて複数の科目を履修するほか、ビジネスインターンシップについては希望する学生が履修できるようにする。
5. 資格取得を目指した資格関連科目を設定し、これらの科目の中から将来の職業選択を見据えて、複数の科目を履修する。

**(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)**

商学部では、多様な価値観と幅広い視野を身につけ、企業経営、地域社会、国際社会に主体的に対応できるための基礎・基本の修得を目指し、理論と実践の両面から学び、学問・文化・言語・価値観の交流に積極的に取り組み、新しい時代に対応する「生きる力」を発揮し、地域社会に主体的に貢献しようとする次のような学生を積極的に受け入れる。

1. 将来の目標を明確に持ち、その実現のためにビジネスの知識を必要とする人
2. 「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れに関心があり、ビジネスに関する専門的な知識・見識を習得しようとする人
3. 世の中の動きに対し、旺盛な好奇心を持って、ビジネスを考えようとする人
4. 勉学に真摯に取り組み、努力する習慣を身につけようとする人
5. 社会に何らかの形でかかわり貢献したいと思っている人

## 別表第1

## 地域共創学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《地域共創学部》

地域共創学部は、様々な地域社会の持続可能な発展のために、豊かな構想力と人間性を育む教養と地域社会の多様な人々との連携に基づき、共創による実践力を備え、課題解決策を企画・立案することができ、新しい価値を創造できる人材を育成する。

## 《観光学科》

観光学科は、観光の学際的理論と実践的教育の特徴を活かし、グローバル、地域、ビジネスの多面的視点からの学びを深め、九州・アジアの観光関連業界で活躍できる幅広い教養と多様な価値観や国際感覚、実務能力を身につけた人材を育成する。

## 《地域づくり学科》

地域づくり学科は、地域の社会文化的知識と、持続可能な地域社会の創出に関わる幅広い分野の専門的知識の習得・実践を通じて、地域の人々との協働を通じて自らの住む地域の未来の共創に貢献できる人材を育成する。

## (教育研究上の目的)

## 《地域共創学部》

地域共創学部の教育研究上の目的は、社会科学における基礎的な知識及び学際的な視点をベースに、「地域」「観光」分野の新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に求められる知識・スキル・人間性を習得することを教育研究の目的とする。地域社会を多角的に理解し、貢献できる「創造力」「行動力」を育み、「専門知識」を活かした「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を養うための理論と実践を融合させた教育を実施する。

## 《観光学科》

観光学科の教育研究上の目的は、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した二つのコース（ホスピタリティ・ビジネス、観光地域デザイン）による理論の学習と実践的、発展的な学びを通して、広く地域社会へ貢献できる「専門知識」「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を学生に習得させることである。

## 《地域づくり学科》

地域づくり学科の教育研究上の目的は、自らの生きる地域社会を多角的に理解した上で、地域社会における課題を自ら見出し解決策を企画するための調査能力、課題に対して積極的に取り組むコミットメント、地域の人々を協働へと巻き込むリーダーシップ、そして自らの学びに自覚的になることで更なる成長を遂げるための自省的姿勢を身につけるための研究・教育を行うことである。

## 地域共創学部の3つのポリシー

## (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

地域共創学部では、本学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、地域を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技能を兼ね備え、社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために教育課程の中から指定された単位を含め、124単位以上を修得し、共創的な相互作用の発現に必要な幅広い教養、専門的知識、課題解決能力を身につけた者に対して学士の学位を授与する。

## 《観光学科》

観光学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 観光学に関する基本的知識を習得している。
2. 観光の諸問題を理解して課題を発見し、論理的に分析し考察する力を身につけている。
3. 九州・アジアに生起する観光の諸問題に積極的な関心を持ち続けることができる。
4. 自主的な学習を通じて、社会人としての自覚を持ち、責任を果たすことができる。

5. 観光の諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・検討・整理・統合する力を身につけている。自らの思考・判断のプロセスを明確に説明し、文章で表現する力を習得している。

#### 《地域づくり学科》

地域づくり学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 地域の課題を理解し、幅広い教養知をもとに説明することができる。
2. 地域の課題を探る調査能力と、その課題解決力を身につけている。
3. 地域の活性化に寄与し、地域を共に創る協調性と実践力を身につけている。

#### 《教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー》

地域共創学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目および外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門教養科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示しつつ、各学科にそれぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

#### 《観光学科》

大学及び地域共創学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、観光学科のカリキュラム・ポリシーを以下のとおり定めている。

1. 観光の基礎を学ぶ学科共通科目を設け、その他各コースの目標に対応した専門科目を配置している。
2. それぞれの専門分野ごとに、基礎、応用、演習と段階的に履修することができるよう体系的に履修科目を配置している。
3. 基礎となる科目は全員履修としている。また演習系科目では、少人数による対話（報告・発表・討論）教育を行っている。

#### 《地域づくり学科》

大学及び地域共創学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域づくり学科のカリキュラム・ポリシーを以下のとおり定めている。

1. 地域の課題を多面的に解決するために、複数のものの見方を身につける専門横断的な教育。
2. 法学、行政学系の理論と演習科目を配置し、行政の基礎知識を身につける教育。
3. 地域の課題を探る社会調査力と実践的解決力を身につける理論と演習科目を配置し、実践的解決力を涵養する教育。

#### 《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》

九州産業大学のアドミッション・ポリシーを受けて、本学部では、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、観光や地域の活性化に関心があり、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人

#### 《観光学科》

大学及び地域共創学部のアドミッション・ポリシーに基づき、観光学科のアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。

観光学科では、上の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 人との交流やホスピタリティ産業に関心があり、観光に関する専門的な知識を習得したい人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめる力を身につけたい人
3. 自然や文化を愛し、それらとのかかわりを通じて豊かな人間性を育みたい人
4. 地域や郷土を愛し、それらの発展に寄与したい人

#### 《地域づくり学科》

大学及び地域共創学部のアドミッション・ポリシーに基づき、地域づくり学科のアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。

地域づくり学科では、上の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 地域の活性化や振興に興味があり、学習意欲が高い人
2. 地域の人々との協同活動に不可欠な、コミュニケーション力を身につけたい人
3. 自らの意志で積極的かつ頻繁に地域に足を運ぶことをいとわない人

## 別表第1

## 理工学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《理工学部》

理工学部では、九州地域に展開されている自動車製造業・半導体製造業・ロボット産業をはじめとする情報メカトロニクス分野において貢献できる汎用的な知識と技術力を備えた中核的技術者の養成を目的とする。

## 《情報科学科》

情報科学科では、現代社会を支える情報技術及び情報数理の基礎を確実に身に付け、高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力を持つ人材を養成する。また、情報分野を基盤とした機械工学や電気工学の分野において情報技術及び情報数理を適切に活用できる能力を持つ人材を養成することを目的とする。

## 《機械工学科》

機械工学科では、情報メカトロニクス分野における地域の発展に寄与するため、機械、ロボット、メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎学力、ロボット、メカトロニクスを含む機械工学の基礎及びコミュニケーション能力を身に付けた汎用的な知識と技術力を備えた中核的技術者を養成する。また、これまでの機械工学科が推進してきたモノづくり教育に加え、実践的なプロジェクトデザイン教育を導入することで、地域社会の発展のために大学での学修成果を継続して生かすことのできる人材を養成することを目的とする。

## 《電気工学科》

電気工学科では、エネルギー及び環境の問題に対応し、生活に欠かせない電力と電力を作るエネルギー源、電力エネルギー設備を制御する情報通信ネットワーク、電力変換回路を構成する半導体デバイス(エレクトロニクス)、更に、将来技術として期待される超伝導、電子材料等に関する電気電子技術の習得を目指して教育・研究を行う。そのため、工学の基礎及び電気電子工学分野に関する専門基礎教育を重視し、更に、学生の将来の進路に合わせて資格取得サポートを行うカリキュラムを用意し、社会構造の変化に対応でき、実践的で柔軟な発想力を持ち倫理観を併せ持つ人材を養成することを目的とする。

## (教育研究上の目的)

## 《理工学部》

理工学部では、社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、情報科学・機械工学・電気工学及びこれらを横断・融合した情報メカトロニクス分野における理論と技術(専門技術力)、高い知性と豊かな感性を持ち社会で活躍できる力(社会実践力)を習得することで、卒業する学生一人ひとりに自信と達成感を持たせることを教育研究上の目的とする。

## 《情報科学科》

情報科学科では、情報技術を中心に学修する情報技術コースと伝統的な数学を系統的に学び、更に、情報数学を学修する情報数理コースの2つのコースを設置する。情報技術コースには、国際的に通用する技術者教育プログラムを用意し、情報技術の基礎を確実に身に付け高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力を身に付けることを到達目標としている。一方、情報数理コースでは、伝統的な数学として、微分積分、線形代数、確率統計等を学び、数学的な基礎を確かなものとし、また、情報数学としてコンピュータと共に発展してきた数学の分野である離散数学、数理論理学等を学修し、中学校や高等学校等の純粋数学の教育者として、あるいは数学と情報の応用分野の職業人として社会に貢献できる能力を身に付けることを教育研究上の目的とする。

## 《機械工学科》

機械工学科では、ロボット、メカトロニクスを含む機械分野の仕事に必要とされるデザイン能力の習得を目標とする。工学におけるデザインとは、企画、仕様、設計、加工、組立及び検査に至るモノづくりにおける総合的な能力を示している。総合的な基礎学力からロボット、メカトロニクスを含む機械工学の基礎までを段階的に学び仕事に生かせるように、座学のみならず実験・実習を積極的に取り入れた体系的

なカリキュラムを編成することで、創造性豊かな専門技術者を育成することを教育研究上の目的とする。

#### 《電気工学科》

電気工学科では、電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電気エネルギーコースでは電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、また、通信システムコースでは情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用し得る能力を習得していること並びに論理的に説明・討論するコミュニケーション能力と技術者倫理を身に付けることを教育研究上の目的とする。

### 理工学部の3つのポリシー

#### (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

理工学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 各学科(情報科学科、機械工学科、電気工学科)における基礎的な専門知識を修得し、かつ専門知識を様々なアプリケーションに活用できる。
2. 論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性・主体性・技術者としての倫理観を身に付け、創造力・実践力を発揮できる。
3. 情報メカトロニクスに関わる技術・技能を修得し、地域社会の発展に貢献できる。

#### 《情報科学科》

情報科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 情報技術及び情報数理における基礎的な専門知識を修得し活用できる。
2. 情報分野を基盤とした機械・電気工学の分野において活躍できる。
3. 高い倫理観を持った技術者として円滑なコミュニケーションを図りながら地域社会の発展に貢献できる。

#### 《機械工学科》

機械工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 機械・ロボット・メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎的な数理学、機械工学の基礎及びこれらを産業界で生かすことができる。
2. 技術者として必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を発揮できる。

#### 《電気工学科》

電気工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用できる。
2. 技術者倫理を身に付け、論理的に説明・討論するコミュニケーション能力を発揮できる。

#### (教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

理工学部では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。

1. 自然科学の仕組みを理解する幅広い知識を養うためのKSU基盤教育、産業界・地域社会の要望に応えるための専門教育
2. 学部単位で仲間と助け合いながら、チームで課題解決に取り組むプロジェクトデザイン教育
3. 協調性・主体性・積極性・独創性を育み、コミュニケーション力・課題解決力を養い、理工学分野において付加価値が高い技術を生み出すための教育
4. モノづくり等の生産現場で活躍するための教育

**《情報科学科》**

情報科学科では、学部の要件に加え、次のように科目を編成し、講義で理論・知識の基礎を体系的に身につけるとともに、演習・実験でそれを実践する教育を実施する。

1. 「専門基礎科目」による情報領域の基礎分野の教育
2. 「情報数理科目」による数学的な理論的基礎の幅広い教育
3. 「計算機科学科目」による計算機科学の基礎分野の教育
4. 「専門展開科目」による情報技術及び情報数理の応用分野の教育
5. 「実践力育成科目」による実践的に活用できる人材を育成する教育

**《機械工学科》**

機械工学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 数学や物理の基礎から、ロボット・メカトロニクスを含む機械工学を段階的に学ぶための教育
2. 産業界で生かせるように、座学のみならず演習・実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムによる教育
3. 機械、ロボット、生産技術に分けた「コース専門科目」等により現場で役立つ実践力を育成する教育

**《電気工学科》**

電気工学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 1、2年次には技術者キャリア形成、工学基礎、専門基礎など基礎力養成の教育
2. 3、4年次には電気エネルギー又は通信システムコースの専門を深く学ばせ、また、KSU プロジェクト型教育、実験や卒業研究で実践力修得の教育
3. 演習で資格取得をサポートし、基礎・応用力を伸ばす教育

**(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)**

理工学部に関連する学術分野で、創造的活動を行う人材と人間性豊かで国際的視野を持った人材を育成するために、次のような学生を受け入れる。

1. 情報科学・機械工学・電気工学又は情報メカトロニクスに興味がある人
2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人
3. 客観的な視点で物事を判断でき、自分の考えをまとめることができる人
4. 情報メカトロニクスに関連する分野の研究者・教育者を目指している人

**《情報科学科》**

情報科学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 情報技術や情報数理に強い興味を持っている人
2. 情報科学に関する専門知識を身に付けようとする意欲が高く、技術の修得にも積極的に取り組む人
3. 情報分野を基盤とした機械工学や電気工学に関心を持ち、多面的な視点から創造活動を行うことを目指す人、修得した知識を生かして地域社会に貢献したいと考えている人

**《機械工学科》**

機械工学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 機械・自動車・産業用／介護用ロボット・メカトロニクスを含む機械工学に興味がある人
2. 機械工学に関する専門知識を身に付けようとする意欲が高く、技術の修得にも積極的に取り組む人
3. 学修の成果を機械工学に関連する業務の現場で生かすことで、地域社会に貢献したいと考えている人

**《電気工学科》**

電気工学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 環境と技術の調和、社会的要請及び責任を重んじる人
2. クリーンエネルギー、燃料電池、電気モータ、パワーエレクトロニクス及び超伝導などの電気エネルギーに関心を持つ人
3. 通信ネットワーク、情報処理、ワンセグ及び半導体デバイスなどの通信システムに関心を持つ人



## 別表第1の2

## 機械・ロボットコースの人材養成に関する目的及び履修者の受け入れ方針

**(人材養成に関する目的)**

理工学部履修規程第2条別表第1に示す機械工学科の人材養成に関する目的に加え、機械工学に関する広く体系的な知識を持ち、複合的なエンジニアリング問題を解決できる人材を養成することを目的とする。

**(履修者の受け入れ方針)**

理工学部履修規程第2条の2別表第1に示す機械工学科の要件に加え、次の意欲及び能力を持った人を受け入れる。

1. 機械・ロボットコースが養成しようとする人材を目指す意欲を持っている人
2. 社会の中で技術者に求められる役割と倫理を理解している人
3. 機械・ロボットコースでの学習に必要とされる機械工学に関する基盤的な専門知識及び外国語による基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている人

## 別表第1

## 生命科学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

生命科学部では従来の「化学」及び「生物」分野の教育を基盤としつつ、次世代をリードし、これから発展する分野である「生命」及び人類の生存基盤である「食品」の両分野を加え、それぞれの分野で活躍できる知識と技能を持った人材の養成を目的としている。また、生命科学科では、ナノサイエンス、ライフサイエンス及びフードサイエンス関連の分野で活躍できる知識と技能をもった専門性の高い人材育成を目的としている。このため、生命科学科を「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」に分けて、それぞれのコースにおける知識・技術の習得が可能なカリキュラム編成により、各分野の産業界等において活躍・貢献できる人材を養成することを目的とする。

## (教育研究上の目的)

生命科学科では、「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」のそれぞれの専門分野において、企画・研究・開発・生産・品質管理等幅広い専門知識と実践的技術の習得を教育研究上の目的とする。

## 生命科学部の3つのポリシー

## (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

生命科学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し学位を授与する。

1. 社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を備えている。
2. 化学又は生物学領域の基礎的知識と専門的知識を理解し、活用することができる。
3. 化学又は生物学領域の実験技術を修得し、結果の分析や考察を通して成果をまとめ、発表することができる。
4. 応用化学、生命科学又は食品科学分野に関する課題を積極的に発見し、解決方法を考えることができる。

## (教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

生命科学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。

1. 一般教養科目を通して、社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を身に付ける。
2. 化学又は生物学を基盤とした複数領域の専門科目を通して、応用化学、生命科学又は食品科学分野で必要となる専門知識を身に付ける。
3. 系統立てた複数の実験科目を通して、実験技術や論理的思考力を身に付ける。
4. 卒業研究及び卒研ゼミナールを通して、課題発見能力や問題解決能力を身に付ける。

## (入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

生命科学部は、次の能力・意欲を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 専門分野を学ぶ上で必要となる数学、国語、英語等の基礎学力を有する人
2. 化学又は生物学領域の専門分野に興味があり、知識や技術を活かして社会に貢献したいと思っている人
3. 広い視野と公平・公正な判断力を養うために、幅広い学問領域についても学習する意欲のある人
4. 学内外の様々な活動に対して、協調性を持ちながら積極的に取り組むことのできる人
5. 友愛の精神を持って勉学しようとする人

別表第2

## 年次別授業科目配当表

生命科学部 生命科学科（応用化学コース）

\*印は必修科目 △印は選択必修科目

区分	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
専 門 科 目	化 学 系	*生命科学導入実験	2	*無機化学Ⅰ *無機化学Ⅱ *有機化学Ⅰ *有機化学Ⅱ *物理化学Ⅰ *物理化学Ⅱ *分析化学Ⅰ *分析化学Ⅱ *化学基礎実験 (コンピュータ活用を含む) 高分子化学Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	*応用化学実験Ⅰ △応用化学実験Ⅱ 無機化学Ⅲ 有機化学Ⅲ 物理化学Ⅲ 高分子化学Ⅱ 化学と安全 機器分析 無機機能材料 有機機能材料 複合材料 医療材料 高分子材料 水質環境化学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	*卒業研究 *卒研ゼミナールⅠ *卒研ゼミナールⅡ	6 2 2		
		生 命 ・ 食 品 系			*生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 分子生物学Ⅰ 分子生物学Ⅱ 医用工学 微生物学 食品衛生学	2 2 2 2 2 2 2	*薬学Ⅰ 薬学Ⅱ 化粧品基礎科学 化粧品製剤学 生体工学 化粧品機能学 △生命科学応用実験 △食品科学実験	2 2 2 2 2 2 2 2			
			学 科 共 通	*基礎生物学	2	化学数学	2	科学英語	2		
				*生物学	2	地球科学実験	2				
				*環境科学	2	(コンピュータ活用を含む)					
地球科学Ⅰ	2										
地球科学Ⅱ	2										
*基礎化学Ⅰ	2										
*基礎化学Ⅱ	2										
*情報科学Ⅰ	2										
*情報科学Ⅱ	2										
キャリア設計					*プレ卒研ゼミナール インターンシップ	2 2					
理工学基礎	*基礎数学	2	物理学Ⅱ	2	プログラミング入門	2					
	基礎物理	2	物理実験	2							
	物理学Ⅰ	2	(コンピュータ活用を含む) 微積分学	2							

## 別表第1

## 建築都市工学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《建築都市工学部》

建築都市工学部は、建築学科、住居・インテリア学科、都市デザイン工学科のそれぞれの基礎的な教育に加え、学際的な教育を推進し、産官学の連携や国内外の大学・研究機関との共同研究や人材交流を行う。それらの取り組みを通じて、国土強靱化、インフラストラクチャ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効利用等、建築学・住居学・土木工学に跨る広範な学修を行い、安心・安全で、美しく、自然に配慮した快適な人間生活の器としての建築と都市について、経済性を考慮しながら、偏りなくバランスのとれた計画・設計を行い、その生産と維持管理、運営に貢献できる能力を育成することを人材養成の目的とする。

## 《建築学科》

建築学科では、「安全で美しく快適な人間活動の器としての建築や都市を、経済性を考慮しながら計画・設計し、築き、運営することができる能力」及び「高度な専門知識を実務に適用し得る能力」を身に付けさせることを人材養成の目的とする。そのため、建築学科では、計画・環境・構造の建築3分野をバランス良く学べるように、建築士等資格取得を目指す建築学科建築基本コースと、グローバル人材としての建築技術者育成を目指す建築学科建築総合コースを設け、ハード・ソフト両面からの専門教育を展開し、一級建築士取得を重視した教育を行う。

## 《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、建築都市工学部における住居・インテリア領域の中でも、①人々を包み込む基本的な空間、②人々が住まう住居、③オフィスや商空間といった業務系施設のインテリア、④住居と業務系施設を複合した住居系複合施設のインテリアの4つを対象を絞り込んだ設計教育を設計基幹科目として位置づけ、住居・インテリア領域における上記の4つを対象とした設計の専門家たる人材養成を目的とする。そのため、住居・インテリア学科では、1・2年次に設計基幹科目とともに、住居・インテリア領域の基盤となる科目を学修し、3年次前学期からのスタジオ制導入で住居・インテリア領域における個別の専門的知識及び技術・技能の学修を行い、実践力を培うことを重視した教育を行う。

## 《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、都市基盤構造物の建設に関する幅広い知識を修得させ、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画・設計・施工や維持管理に貢献できる能力を身に付けさせることを人材養成の目的とする。そのため、都市デザイン工学科では、土木工学の基礎を学んだうえで、都市防災分野等の社会的要望の大きいテーマを幅広く学べることを特色とし、「土木デザイン」、「都市防災」、「まちづくり」、「環境緑化」を主体にした履修モデルを設けるとともに、JABEE対応の都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースでは総合的な土木技術者の育成を目指して、多様な社会のニーズに応えることを重視した教育を行う。

## (教育研究上の目的)

## 《建築都市工学部》

建築都市工学部では、幅広い教養と建築学、住居・インテリア学、都市デザイン工学に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

## 《建築学科》

建築学科では、建築設計・計画・歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

### 《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、①人々を包み込む基本的な空間、②人々が住まう住居、③オフィスや商空間といった業務系施設のインテリア、④住居と業務系施設を複合した住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

### 《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

## 建築都市工学部の3つのポリシー

### (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士(工学)を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力

### 《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

### 《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

### 《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

### (教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

建築都市工学部では、KSU 基盤教育と専門科目の正課教育を行うと同時に KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外教育を行う。

1. 国土強靱化、インフラ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効活用などの広く社会の期待に応えるための建築都市工学分野に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築都市工学分野において地域に貢献する人材を育成する。

**《建築学科》**

建築学科では、地方の建設業界で活躍する建築士を目指す建築学科建築基本コース、国際的に通用する建築士を目指す建築学科建築総合コースを設け、建築の計画歴史、環境設備、構造生産に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための建築学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築学分野において地域に貢献する能力を育成する。

**《住居・インテリア学科》**

住居・インテリア学科では、①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計及び関連する技術・技能に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための住居・インテリア学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、住居・インテリア学分野において地域に貢献する能力を育成する。

**《都市デザイン工学科》**

都市デザイン工学科では、従来の土木工学における基礎的学問領域に加え、「土木デザイン」「都市防災」「まちづくり」「環境緑化」分野及び技術士養成プログラムにおいて応用知識やエンジニアリングデザイン能力に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための都市デザイン工学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、都市デザイン工学分野において地域に貢献する能力を育成する。

**(入学者の受け入れ方針：アドミSSION・ポリシー)**

建築都市工学部は、工学における基礎的知識をベースに、国土から住まいまで連続する空間のあり方を追求する広い視野を持ち、多様な社会ニーズに応えることのできる実践的能力を有した人材養成のため、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築都市工学に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築都市工学分野において卓越した能力を持っている人

**《建築学科》**

建築学科では、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築の設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築学分野において卓越した能力を持っている人

**《住居・インテリア学科》**

住居・インテリア学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に対して強い関心があり、住まう空間・働く空間・商空間の在り方、リノベーション、住環境評価に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 住居・インテリア学分野において卓越した能力を持っている人

**《都市デザイン工学科》**

都市デザイン工学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 持続可能な環境づくりや、災害に強く、安心・安全で美しく住みやすいまちづくりに関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 都市デザイン工学分野において卓越した能力を持っている人

## 別表第1の2

## 建築学科建築総合コース及び都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースが育成しようとする技術者像と履修者の受け入れ方針

## (育成しようとする技術者像)

## 《建築学科建築総合コース》

建築学科建築総合コースが目指すべき人物像は、建築学に関する広く体系的な知識を持ち、地球環境に配慮できる素養を身につけ、建築学分野の専門技術者として地域社会に貢献できる人

## 《都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース》

都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースが目指すべき人物像は、「実社会で土木構造物、まち・建物、環境・緑化をデザイン・施工管理する技術者である。具体的到達目標は幅広い学問的知識を修得し、地球環境に配慮できる素養を身につけることである。」と定めている。

## (履修者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

## 《建築学科建築総合コース》

建築学科建築総合コースでは、以下の条件を3年次配当科目の履修登録時に満たしている学生を受け入れる。

1. 建築学に関する基盤的な専門知識を身につけている学生
2. 社会の中で技術者に求められる役割と倫理を理解している学生
3. 外国語による基礎的なコミュニケーション能力を身につけている学生

## 《都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コース》

都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースでは、以下の条件を3年次配当科目の履修登録時に満たしている学生を受け入れる。

1. 都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースが育成しようとする技術者像を目指す意欲を有する学生
2. 都市デザイン工学科都市デザイン工学応用コースの修了に必要な学修の基礎が修得できている学生

## 別表第1

## 芸術学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《芸術学部》

多様化する新しい時代の要請に応え地域から世界に至る人類社会の発展に貢献するために、芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科で構成し、「産学一如」の建学の理想のもと地域産業との連携や国内外の大学との共同研究や人的交流を積極的に推し進め、社会と文化の創造に貢献できるアーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を養成する。

## (芸術表現学科)

新しい絵画表現と立体造形表現を模索し、現代アートなどを提案する作家を養成し、なおかつメディアアート、マンガ、ゲーム等の新規領域を加え、広く多彩な領域を網羅する先端芸術を担う人材を養成する。

## (写真・映像メディア学科)

多様化する社会に対応するため、豊かな想像力と行動力を基に最新の撮影技術や処理技術を用いて、表現の可能性を最大限引き出せる様々な撮影現場への対応と、作品表現を通して社会へ発信できる写真・映像メディア分野の専門家を養成する。

## (ビジュアルデザイン学科)

アナログとデジタル双方の表現技術を用い、社会に貢献できるデザイナー、アートディレクター、アーティスト等のビジュアルコミュニケーションのプロを養成する。

## (生活環境デザイン学科)

プロジェクト型教育など社会との関わりの中でデザインを検討し実施する機会を設け、それらへの参加を奨励し、地域社会や産業の中でデザインの役割を実感しながら学習することを通じて、実践的な能力と幅広い視野を持った人材を養成する。

## (ソーシャルデザイン学科)

デザインの持つ情報発信力を基に IT 技術や企画技術を用いて、地域や地域産業と積極的に連携していくソーシャルデザイン分野の専門家を養成する。

## (教育研究上の目的)

## 《芸術学部》

社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、芸術の各分野における理論と技能を兼ね備え、高い知性と豊かな感性を持つ専門能力の習得を目指しており、芸術に関する基盤的な知識と各専門分野の教育を行い、「基礎的教養」「専門的知識」「論理的思考力」「実践力」「コミュニケーション力」「主体的行動力」を身に付けさせることを教育研究上の目的とする。

## (芸術表現学科)

芸術表現分野の専門家として必要な「造形力」や「審美力」を養う。地域やグローバル社会へ向けて文化貢献ができることを目指し、伝統的な表現と次世代の表現を担う画家、造形作家、フィギュア作家、メディアアーティスト等を目指すことを教育研究上の目的とする。

## (写真・映像メディア学科)

写真・映像メディア分野の専門家として必要な「想像力」や「行動力」を習得させることを教育研究上の目的とする。

## (ビジュアルデザイン学科)

情報技術の進展に対応したデジタル機器を備えた教育環境のもと、実習・演習を中心とした授業を通して、現代または将来の社会要請に応えることができる実践的なデザイナー能力を習得させることを教育研究上の目的とする。



**(生活環境デザイン学科)**

「造形力」、「構成力」、などを身に付け、その分野の高度な専門家としての人材を養成する。より幅広い領域にも応用できるデザインのマインドも養い、実践力のある柔軟な人材を養成することを教育研究上の目的とする。

**(ソーシャルデザイン学科)**

ソーシャルデザインに欠かせない「問題発見能力」と「解決提案能力」という2つの能力の習得することを教育研究上の目的とする。

**芸術学部の3つのポリシー****(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

芸術学部では、アーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者として次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 芸術の各分野における幅広い知識を備え、適切に活用できる。
2. 芸術の各分野における技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 高い知性と豊かな感性を備え、社会と文化の発展に貢献できる。

**《芸術表現学科》**

芸術表現学科はアーティスト、クリエイター、研究者として次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 自律した豊かな思考理論と学際的な専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 高度な表現技術と表現技法を修得し、優れた創造力と審美力を発揮できる。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術の芸術表現を通じて、芸術文化の創造に主体的に貢献できる。

**《写真・映像メディア学科》**

写真・映像メディア学科はスペシャリストとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する今日の社会の要求に素早く対応する幅広い教養と専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 自己を発信する技術・技法を修得し、想像力・実践力を発揮できる。
3. 写真や映像メディアを通じて主体的に社会と文化の発展に貢献できる。

**《ビジュアルデザイン学科》**

ビジュアルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 現代社会における多様なビジュアルコミュニケーションの専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 編集や伝達に関する技術・技法を修得し、表現力・実践力を発揮できる。
3. グラフィックデザイン、イラストレーションデザインを通じて社会と文化の発展に貢献できる。

**《生活環境デザイン学科》**

生活環境デザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する社会において、豊かな暮らしや環境をつくる専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 造形や構成等の技術・技法を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 工芸、プロダクト、空間演出を通じて社会と文化の発展に貢献できる。

**《ソーシャルデザイン学科》**

ソーシャルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 将来の地域社会のブランドづくりのための専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 情報伝達や企画構築の技術・技法を修得し、提案力・実践力を発揮できる。
3. 情報デザイン、ブランドづくりを通じて地域文化や地域産業の発展に貢献できる。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

芸術学部は、次の方針で人材を育成する。

1. 芸術の各分野の幅広い知識と技能を通じて、高い知性と豊かな感性を培い、社会と文化の発展に貢献する人材を育成する。

2. 芸術に関する基盤的な知識と各専門分野の教育を行い、「基礎的教養」「専門的知識」「論理的思考力」「実践力」「コミュニケーション力」「主体的行動力」を備えた人間性豊かな人材を育成する。
3. KSU プロジェクト型教育及び多様な専門教育を学び、芸術の各分野で実践できる人材を育成する。

#### 《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな思考理論を培い、次世代の芸術文化を主体的に創造できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と芸術表現分野の教育を行い、高度な表現技術と表現技法を備える人材を育成する。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術分野のそれぞれの多様な専門科目と高度な技術を学び、芸術表現の分野で実践できる人材を育成する。

#### 《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、幅広い教養を培い、写真、映像を通して社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と写真、映像メディア分野の教育を行い、自己を発信する技術と技法を備える人材を育成する。
3. 写真、映像メディアそれぞれの多様な専門科目と高度な制作技術を学び、写真・映像メディア分野で実践できる人材を育成する。

#### 《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ビジュアルコミュニケーション能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識とビジュアルデザイン分野の教育を行い、高い編集力や伝達力を備える人材を育成する。
3. グラフィック、イラストレーションそれぞれの多様な専門科目と多様な表現技術を学び、ビジュアルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

#### 《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな暮らしや環境をつくる能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と生活環境デザイン分野の教育を行い、高い造形力や構成力等を備える人材を育成する。
3. 工芸、プロダクト、空間演出それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、生活環境デザインの分野で実践できる人材を育成する。

#### 《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ブランドづくりの能力を培い、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識とソーシャルデザイン分野の教育を行い、高い情報伝達力や企画構築力を備える人材を育成する。
3. 情報デザイン、地域ブランド企画それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、ソーシャルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

#### 《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》

芸術学部は、次の能力・資質を持った人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、アートやデザインの分野に興味があり、創作意欲のある人
2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人
3. 客観的な視点で物事を判断でき、自己を発信できる人
4. 将来アーティストやデザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を目指している人

#### 《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 絵画・立体造形・メディア芸術分野に興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的な技法から先端的な技術まで、好奇心を持って幅広く探究する人
3. 自由で豊かな発想と論理的思考能力を持っている人
4. 芸術表現の分野に意欲的に挑戦しアーティスト、クリエイター、教育・研究者を目指す人

#### 《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 写真や映像メディアの技術に興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的な技法から先端的な技術まで幅広く探求する人
3. 芸術性や実用性について、多面的に考察できる能力を持っている人
4. 写真のスペシャリストや映像メディアの表現者を目指している人

#### 《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. ビジュアルデザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 社会におけるビジュアルコミュニケーションの機能や役割を探求する人
3. ビジュアルデザインを多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. グラフィックデザイナーやイラストレーター等のクリエイターを目指している人

#### 《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 工芸、プロダクト、空間演出それぞれのデザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的なモノづくりや新たなモノづくりの技術・技法や考え方を探求する人
3. 人間の生活環境を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. 生活環境デザイン分野のクリエイターを目指している人

#### 《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 情報伝達やブランド企画構築に興味があり、創作意欲のある人
2. 地域産業や地域文化、地域創生の技術・技法を幅広く探求する人
3. 地域社会の課題を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. ソーシャルデザイン分野のクリエイターやプロデューサーを目指している人

## 別表第1

## 国際文化学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《国際文化学部》

国際文化学部は、日本とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史についての専門的な知識、およびこれらの文化体験をもとに、グローバル社会に対応できる豊かなコミュニケーション力と主体性・協調性、問題発見・解決のスキルをそなえた国際的な人材を養成する。

## 《国際文化学科》

国際文化学科は、実践的な英語力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養をもとに、グローバル社会において卓越した英語コミュニケーション力、豊かな教養、他者と協調する態度、問題発見や解決力をもって活躍できる人材を養成する。

## 《日本文化学科》

日本文化学科は、日本の文学・言語・歴史・民俗についての専門的な知識、および日本文化の現地学習や異文化交流体験をもとに、国際化が進む地域社会に主体性・協調性・行動力をもって貢献できる人材を養成する。

## (教育研究上の目的)

## 《国際文化学部》

国際文化学部は、世界と日本の文化に関する共通科目群、言語・文化に関する多彩な専門科目群、および創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成するゼミナール系科目群を通して、グローバル化する現代社会に対応できる教養と、専門的な知識と技術を習得させることを教育研究上の目的とする。

## 《国際文化学科》

国際文化学科の教育研究上の目的は、高度な英語コミュニケーション力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養を身につけることにより、グローバル社会を生き抜くための多角的な視点、卓越した英語力、他者と協調する姿勢、問題発見や解決のスキルを習得させることである。

## 《日本文化学科》

日本文化学科の教育研究上の目的は、日本文化を文学・言語・歴史・民俗といった多角的かつ専門的な見地から理解するとともに、グローバルな視野から異なる文化や価値観を尊重する姿勢を身につけることにより、日本の文化の魅力や課題を発見・解決するための実践力を習得させることである。

## 国際文化学部3つのポリシー

## (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

本学部では、次の能力を備え、学則で定められた所定の課程を修了した学生に学士の学位を授与する。

1. 諸外国と日本の文化について幅広い教養を身につけ、さらにそれを専門的に探究できる。
2. 文化や国際事情に関する自らの知識や考えを論理的に表現する力を有している。
3. グローバル社会で活躍できる高度なコミュニケーション力と問題解決力を有している。

## 《国際文化学科》

国際文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を備えている。
2. 現代社会の多様な文化や価値観を認識し、いかに行動すべきかを自ら判断できる。
3. 国際社会の動向と問題に高い関心を持ち、その解決方法を広く社会に発信することができる。

## 《日本文化学科》

日本文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 日本文化について、専門的資料や現地調査を通してその課題を把握し、その問題に対応できる。
2. 多文化社会における日本文化のあり方を、グローバルな視点から相対的に思考・判断することができる。

きる。

3. 日本文化について学んで得た知識や考えを、言葉や文章を通して論理的に説明し、社会に広く発信することができる。

#### 《教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー》

大学のカリキュラム・ポリシーのもと、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科の専門科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

1. 諸外国と日本の文化を学び、現代の国際社会への視野を広げる教育
2. 多様な価値観を積極的に受容し考察する力を養う教育
3. グローバル社会で自らの知見を発信する行動力と表現力を養う教育

#### 《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加えて次のような科目からなるカリキュラムを設置している。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を養う教育
2. アジアや欧米の文化について幅広い知識を育み、国際社会の理解を促す教育
3. 現地実習等を基に多様な価値観を知り、グローバル社会の問題を理解し解決しようとする行動力を養う教育

#### 《日本文化学科》

大学および学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、日本文化学科のカリキュラム・ポリシーを以下のように定めている。

1. 日本文化の専門知識を身につけるため、学科展開科目の中に「日本文学科目」「国語学科目」「民俗学科目」「歴史学科目」の4つの科目群を設け、さらに、応用・実践力を身につけるための「展開共通科目」を設けている。
2. 学科専門科目においては、学生の能動的学修を促し、かつ学修の効果を高めるため、それぞれの分野ごとに履修の順序性を設定し、段階的かつ体系的な履修ができるよう教育課程を編成している。
3. 演習科目においては、学生が主体的な学びを実践できるよう、少人数ゼミナール科目を設け、全学年で必修科目としている。また、実践力を高めるための実地演習科目である「文学実地踏査」を、全学生が履修する選択必修科目として配置している。

#### 《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》

九州産業大学のアドミッション・ポリシーに従い、一定の学力を有する人材の中から、次の能力と意欲を有する者を選抜し、本学部の学生として受け入れる。

1. 建学の理想と理念を十分に理解したうえで、諸外国と日本の文化理解に興味・関心を抱き、学習意欲の高い人物
2. 学問的関心を常に持ち、それを解決・発信する能力を身につけたい人物

#### 《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加え、次の能力と意欲を持つ人を受け入れる。

1. 英語の高度な運用力を身に付け、さらにその他の外国語を習得する意欲のある人
2. 諸外国の文化や国際事情を幅広く学びたい人
3. 外国語能力や外国文化の知識を活かし、コミュニケーション力を持って広く国際社会で活躍したい人

#### 《日本文化学科》

日本文化学科では、学部の要件に加え、次の能力と意欲を持つ人を受け入れる。

1. 日本文化(文学・言葉・民俗・歴史)に関心がある人
2. 日本文化について、グローバルな視野から学ぶことに意欲のある人
3. 日本文化についての専門的な理解を通して、社会に貢献したいと考える人

## 別表第1

## 人間科学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《人間科学部》

大学全体の教育目標である、深い教養に裏打ちされたグローバル化に対応できる心身共に健全な人間を育成することを、先ずは基盤とする。

その中で、人間科学部においては、「人間性の尊重」を基本理念に、乳幼児期(こども)からの人間の成長及び発達過程を「こころ」と「からだ」の両面から多角的かつ科学的に探究し、「人を支える人」を育て、地域社会に貢献できる人材を養成する。

## 《臨床心理学科》

臨床心理学や精神保健福祉学の知識を活かし、コミュニティの勤労者、児童、若者、高齢者、障害者等を支援できる人材、精神保健福祉士として精神障害及び障害のある人や、その他社会的要援助者を支援する人材、大学院に進学して公認心理師や臨床心理士を目指す人材を養成する。

## 《子ども教育学科》

乳幼児期が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、健常児だけでなく、特別な支援が必要な子どもが増加している現代社会の課題にも応えるべく、全ての子どもに対して、適切な支援や質の高い保育が実践できる人材を養成する。

## 《スポーツ健康科学科》

自ら健康であると共に、産業界に貢献できる高い水準のスポーツ健康科学に関する知識を有し、スポーツの振興と発展を担うことのできる人材、また、スポーツを通じた地域コミュニティの形成と発展に携わり、地域社会の健康づくりに貢献できる人材を養成する。

## (教育研究上の目的)

## 《人間科学部》

人間科学部を構成する3学科間の共通のテーマは「“人を支える人”を育てる」である。この共通のテーマを念頭に、人間科学部においては、人間を科学する観点から、「こころ」と「からだ」と「こども」の三分野において、人間理解のあり方、人間の発育や発達過程、保育学、スポーツ科学や健康科学の専門知識や研究・実践法を学び、人を支えるために必要な実践的専門知識と技能を習得させることを教育研究上の目的とする。

## 《臨床心理学科》

臨床心理学や精神保健福祉学の知識を実践に適用できる能力、優れたコミュニケーション能力をもって心の問題に対して深い理解と援助ができる能力、他者の心理を深く理解し、自己啓発を継続して行うことができる能力を習得させることを目的とする。

## 《子ども教育学科》

子どもを一人の人間として尊重し、乳幼児期が人間教育の基盤となる重要な時期であるとの子ども観・保育観の形成のために、乳幼児の心理学と保育学・教育学をベースとして、保育士資格及び幼稚園教諭資格の取得に必要な能力を習得させることを目的とする。また、特別な支援が必要な子どもを教育できる実践力を養成するために、特別支援教育に必要な専門的能力の習得も目的とする。

## 《スポーツ健康科学科》

「スポーツ」「健康」「ビジネス」「指導者」等をキーワードとして、スポーツ健康科学に関連する多彩な進路に対応可能なカリキュラムを編成し、健康マネジメント(健康経営)感覚をも含めた専門的能力と実践的スキルを習得させることを目的とする。

## 人間科学部の3つのポリシー

**(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位(人間科学)を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

**《臨床心理学科》**

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 公認心理師や臨床心理士、精神保健福祉士等の対人援助職として、心の問題を持つ人を援助するための基礎的能力がある。

**《子ども教育学科》**

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 健康な子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

**《スポーツ健康科学科》**

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント(健康経営)の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

人間科学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門基礎科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科それぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

**《臨床心理学科》**

臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 心の問題を持つ人を心理面及び生活面から援助できるために心理学、精神保健福祉学を総合的に学ぶカリキュラムによる教育
2. 公認心理師、精神保健福祉士、臨床心理福祉に分けたコース専門科目により、各現場で活用できる実践力を養成する教育
3. 心の問題を持つ人のコミュニティにおける様々な問題に対応できるように理論系の講義科目のみでなく、演習科目で援助の基礎・応用力を伸ばす教育

**《子ども教育学科》**

子ども教育学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 保育者としての基礎的理論や技能を取得する教育
2. 保育現場での子どもの理解を深め、子育て支援力を取得するための教育
3. 特別支援学校教諭一種免許取得及び卒業研究や演習・実習による実践力形成の教育

**《スポーツ健康科学科》**

スポーツ健康科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 学際的で専門的な知識をもとに、人々の活動的で健康的な生活を支える力と豊かな発想やコミュニケーション能力によって新たな可能性を開ける教育
2. 新しいスポーツ、健康関連ビジネスに関心を持ち、課題を解決するための企画運営を含めたスポーツマネジメント、健康マネジメント関連科目の体系的な教育
3. スポーツ活動を通じて、指導者として子どもたちの「生きる力」を育成し、適切な指導のもと健康維持・技能向上に貢献できることを目指す教育

**《入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー》**

人間科学部では、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、心理、スポーツや健康、幼児教育や保育に関心があり、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人

**《臨床心理学科》**

臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 心理学や精神保健福祉学に関心があり、学習意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 人の心に寄り添い、適切に援助する態度・技術を学び、社会に貢献したいと考える人

**《子ども教育学科》**

子ども教育学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 子どもの心身の健やかな成長を、支援するための知識や技能の獲得に、意欲的な人
2. 教育や保育の現場に不可欠なコミュニケーション力を、身につけている人
3. 保育に関する文化及び技能の獲得に、意欲的な人

**《スポーツ健康科学科》**

スポーツ健康科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。

1. 人間のからだどこころの健康に興味・関心があり、自らの健康や運動能力を高めると共に、多くの人を支えることに関心をもつ人
2. 子どもから高齢者までの人々の幅広いスポーツ活動や地域社会のヘルスプロモーションに関心があり、社会や産業に貢献したいと考えている人
3. スポーツのもつ文化的価値と意義を理解し、特定の領域、特に競技スポーツ分野において、優れた技能を獲得したいと考えている人